

【巻頭言】

立教大学日本学研究所は、二〇〇〇年四月の設立以来、総合大学である本学の特徴を生かし、本学に関するあらゆる分野の研究を進展させるとともに、国内、国外の日本学研究を促進し、学术交流の実現に寄与することを目的として設立され、活動しています。

本号には、研究員による論文六本を掲載しています。

また、昨年度、日本学研究所は、公開シンポジウムと公開セミナーと研究例会を開催しました。公開シンポジウム「室町時代源氏絵研究の最前線」では、室町時代の源氏絵の研究の成果と今後の展望について議論し、美術史学と文学の双方の研究者の交流が実現しました。公開セミナー「東アジアのなかの武家家訓」では、日本と中国双方の家訓研究の成果と課題を確認し、日中比較文化史への展望を示しました。第六二回研究例会「第五回 海外の日本文化研究——その動向と可能性——」では、本学に在籍する留学生たちによる研究発表を行い、世界における日本文化研究の今後の方向性や可能性について議論しました。

昨年度末から今年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、計画していたシンポジウムや研究例会が中止や延期になり、今後の活動の見通しも立たないという困難な状況となっています。そのような苦境の中で、図書館などが閉鎖されたり、利用制限がなされたりしているにもかかわらず、研究員の方々の活発な研究と執筆によって、本号に六本もの論文を掲載できたことを喜ばしく思います。

本研究所の目的達成のため、今後も多彩なシンポジウム、研究例会を企画し、本誌の更なる充実を目指してまいります。一層のご支援をお願いいたします。

二〇二〇年十月

立教大学日本学研究所 所長 井野葉子